

論 壇



蘇 啓 誠

ずれにおいても、台湾側が大きな赤字を呈している。周知の通り、台日経済は垂直協力関係にあるため、長年対日貿易赤字の削減に力を入れても旧態依然のままである。他方、人的往来でも、風光明媚な四季折々の日本の景色が台湾人観光客を引き付け、その数は年々うなぎ上り、これまたアンバランスが拡大

日本では戦前から修学旅行が教育課程に組み込まれ、旅行先として長らく国内の名勝旧跡巡りが主だったが、昨今は若いうちから子供を異文化に触れさせたいという親の思いもあって、海外が確実に増えている。台湾と日本の間では、経済・貿易、観光客などの人的往来い

# 台湾の真の姿を理解へ 増える日本からの修学旅行

国から台湾へシフトする傾向が目立ってきている。台湾教育部(日本の文科省に相当)の統計によると、2016年の台湾への修学旅行学校数と生徒数はそれぞれ322校と3万6192人であり、前年度比68校、1万1980人の大幅増である。このような日本人修学旅行生の増加は、台湾の真の

し、改善の兆候が全く見られない。そんな中で唯一の朗報は、日本から台湾への修学旅行が年々増加していることである。日本から見ると、現在の東アジアの政治情勢では、台湾以外は修学旅行先として安心して生徒を送り出せる状況になく、韓国や中

して、キャンパスの見学、授業の体験、サークル活動、スポーツ競技、芸能披露、ホームステイなどが組みまれており、こういうプログラムを通して相互理解を深めている。私が13年末那覇に着任した際に、台沖間では姉妹校同士で小人数、短期滞在型の交換留学があったくらいで、本格的な修学

姿を理解させるのに大いに貢献するであろう。一方、台湾政府も若者の国際的視野とグローバルな人材の育成という教育理念の下、01年に「高校生の修学旅行を推進する施策」を制定し、その旅行先として日本に照準を定めている。これまで主な交流プログラムと

旅行はなく、非常に残念だった。沖縄と指呼の間にある台湾は教育熱心な国であり、おもてなしと思いやりにあふれた心を持つ。台湾修学旅行生を待っている。台湾修学旅行により、異文化を身近に肌で感じられ、言葉が通じなくてもボディランゲージで意思疎通を図り、複眼的思考を養うことができるものと確信している。近年、関係機関の積極的な取り組みにより、県内の高校の台湾修学旅行が確実に増加しており、この体験により国際感覚を培われた若者たちが、将来、台湾と沖縄との親善友好と相互理解の懸け橋になってくれることを大いに期待している。引き続き関係機関のご支援と協力を切に願う次第である。(那覇市、台北駐日経済文化代表処那覇分処長、59歳)

旅行はなく、非常に残念だった。沖縄と指呼の間にある台湾は教育熱心な国であり、おもてなしと思いやりにあふれた心を持つ。台湾修学旅行生を待っている。台湾修学旅行により、異文化を身近に肌で感じられ、言葉が通じなくてもボディランゲージで意思疎通を図り、複眼的思考を養うことができるものと確信している。近年、関係機関の積極的な取り組みにより、県内の高校の台湾修学旅行が確実に増加しており、この体験により国際感覚を培われた若者たちが、将来、台湾と沖縄との親善友好と相互理解の懸け橋になってくれることを大いに期待している。引き続き関係機関のご支援と協力を切に願う次第である。(那覇市、台北駐日経済文化代表処那覇分処長、59歳)